

三重県立熊野古道センター (優秀賞・中部地区)



北側全景 (夜景)



常設展示室



展示棟エントランスを見る

所在地 : 三重県尾鷲市向井 12-4
 敷地面積 : 38,567.83 m²
 建築面積 : 3,366.82 m²
 延床面積 : 2,439.69 m²
 (交流棟・展示棟) 各 852.93 m²
 (研究収蔵棟) 723.47 m² ほか
 構造・階数 : (交流棟・展示棟) W造 地上 1階
 (研究収蔵棟) RC造 地上 2階 ほか
 事業者 : 三重県
 設計者 : (株)建築研究所アーキヴィジョン, (株)アーキヴィジョン広谷
 スタジオ, (株)梅沢建築構造研究所
 施工者 : (交流棟・展示棟) 奥村組・東建興業特定建設工事 JV
 竣工年月 : 平成 18 年 12 月
 総工事費 : 1,153 百万円

この作品は、尾鷲港を見下ろし伊勢路熊野古道の中で最も美しく長い石畳を今に残す「馬越峠」を見はるかす棚田の中ほど、景観的に優れた敷地に見事に調和し、完成されている。

構造的には、「伝統的な木材の使用方法を応用し、これまでにない空間を実現する」という設計者の目論見どおり、無柱の大空間を実現するために、空間的に要求された長大な梁末を構造的に担保するために、同じ有効断面の梁と変わらぬ性能を引き出し、モジュール化された長尺一体の壁パネルや、組み立て梁で解決する試みを成功させている。

建築的表現は、尾鷲ヒノキの、間の詰まった年輪と強度、そしてつやをもつ特性を活用し、その意匠を追求している。その結果、立て格子に彩られ舟肘木が軒に連続する二棟の建築がさながら透き廊の雰囲気を感じ出し、一体感を以って海からの明るい陽光を外気との呼吸の一つとして独特の陰影を伴わせる空間を得ることに成功している。

その背景には、我国の林業、林産材の危機的な状況に、この事業から未来を可視化したいという使命感があり、用材の「トレーサビリティ」を、135 mm角の一般流通規格材 6,549 本の全てについて行ったことから見て取れる。

(涌井史郎委員)